



## 問題だらけの神宮外苑地区再開発 MAP

神宮外苑地区では「東京2020大会後の神宮外苑地区的まちづくり指針」(2018年東京都策定)に基づき、港区と新宿区にまたがる約28.4ヘクタールの地区を都市計画変更した、13年にも及ぶ大規模再開発が進行しています。神宮外苑は創建時から戦後を通じ、風致地区の規制によってその景観と環境が守られてきました。しかし、五輪開催のため国立競技場の建て替えを機に始まった大幅な規制緩和はエリアを拡大し、神宮外苑の貴重な歴史的樹木を伐採し、超高層ビル3棟が建つという計画は、多くの環境破壊や住民被害の問題を抱えたまま進んでいます。

屋根つき＆人工芝ラグビー場建設のため貴重な樹林は3分2が伐採、生態系としての森は失われる。

広場両側にテニスコートが作られ、200本以上の樹木が伐採される



超高層ビルや巨大施設が建ち並ぶ再開発後のイメージ



緑豊かな創建当時の明治神宮（出典：明治神宮外苑）  
明治神宮外苑は、明治天皇崩御の後、国民の憩いの場となることを目的として整備された、近代日本における初の本格的西洋式庭園です。広く国民から集められた献金と献木、また青年団の勤労奉仕によって造営され、1925年（大正15年）に竣工し、その施設は、明治神宮に奉獻されました。



※この図は高さ3mを超える現存樹木のみ表示、それ以下の低木植栽や新たに植樹される木については表示していません。


[文字サイズ 錢小 標準 拡大](#)
[Language](#)
[都庁総合ホームページ](#)

検索ワードを入力

検索

トップ

[都市整備局について](#)[分野別で探す](#)[窓口で探す](#)[各種申請様式](#)[審議会・計画](#)[よくあるお問合せ](#)

[トップページ](#) > [まちづくり～国際競争力の強化等に資する都市の再生～](#) > [都有地等をいかしたまちづくり](#) > [神宮外苑地区のまちづくり](#) > 岸記念体育会館の移転等に関する主な経緯

## 岸記念体育会館の移転等に関する主な経緯

最終更新日：令和4（2022）年7月20日

昭和32(1957)年	12月21日	都市計画代々木公園の都市計画決定
昭和39(1964)年	7月10日	岸記念体育会館(以下「岸体」という。)竣工
平成16(2004)年	頃～	日本体育協会(以下「日体協」という。)が、岸体の現地建替えを検討
平成20(2008)年	7月	日体協は、協会創立百周年記念事業で想定される事業の一つとして、岸体の建替えを表明
平成22(2010)年	12月17日	<p>都は、「10年後の東京への実行プログラム 2011」を策定 (<a href="#">PDF 534KB</a>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・霞ヶ丘、武蔵野の森、駒沢などスポーツ拠点を整備</li> <li>・霞ヶ丘競技場一帯は、神宮スポーツクラスターとして、特区制度の活用などにより整備</li> </ul>
平成23(2011)年	2月15日	<p>ラグビーワールドカップ2019日本大会成功議員連盟決議 (<a href="#">PDF 535KB</a>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立霞ヶ丘競技場を8万人規模のナショナルスタジアムとするなど、明治神宮外苑地区の都市計画や周辺環境整備を含めて早急に検討を行い一帯のスポーツ施設を再整備すべき</li> </ul>
	頃	日体協は、岸体の現地建替えに向け、隣接する国有地の活用を前提に検討（平成23年2月に、日体協が岸体の現地建替え案を都に説明）していたが、財務省との協議が不調
	6月24日	<p>スポーツ基本法公布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際競技大会の招致又は開催の支援等</li> </ul>
	7月16日	都は、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会招致への立候補表明
	8月19日	<a href="#">岸体に係る今後の方向性について、都市整備局が副知事に説明</a> ( <a href="#">PDF 122KB</a> ) (岸体の神宮外苑地区への移転検討に初めて言及)
	9月15日 及び22日	<p>国立競技場建替えに関連した都有地を活用したまちづくり等について、<a href="#">都市整備局が副知事に説明</a> (<a href="#">PDF 3,129KB</a>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立競技場建替えを契機に、周辺都有地等を含めた区域の再編整備について検討開始</li> <li>・その中で、岸体の神宮外苑地区への移転と岸体跡地の公園整備についても検討</li> </ul>
	12月19日	日体協が、岸体の現地建替え最新案を都に説明
平成24(2012)年	12月22日	<p>都は、「2020年の東京」計画を策定 (<a href="#">PDF 178KB</a>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神宮外苑地区を四大スポーツクラスターの一つに位置付け</li> </ul>
	1月10日	<p>国立競技場の建替え、岸体建替えについて、<a href="#">都市整備局が副知事に説明</a> (<a href="#">PDF 862KB</a>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立競技場の建替えに向けた今後の対応について</li> <li>・日体協への移転提案時期等の検討の必要性について</li> </ul>
	2月1日	日本スポーツ振興センター(以下「JSC」という。)（当時「NAASH」）が、国立競技場将来構想有識者会議を設置
	2月13日	東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会がIOCへ申請ファイルを提出
		・国立霞ヶ丘競技場は8万人収容のオリンピックスタジアムとして開閉会式等の会場
	2月28日	萩生田光一氏と都市整備局幹部が国立競技場の建替えについて情報交換。 ( <a href="#">PDF 68KB</a> ) その際、萩生田氏から「日体協は、現地建替えが難しいので、神宮外苑に移ってJSC（当時「NAASH」）と一緒にビルに入りたいと言っている」との発言あり
	3月2日	<a href="#">国立競技場の建替えについて、都市整備局が副知事に説明</a> ( <a href="#">PDF 1,170KB</a> )
3月6日		・国立競技場の建替えを契機に神宮外苑一帯を再整備
		・都知事が、「建替えだけでなく、神宮外苑地区全体の構想が必要だと考えており、明確な国家プロジェクトだと位置づけてほしい」と発言

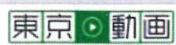
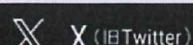
	4月6日	都は、日体協に対し、「現地建替えだけでなく、国立競技場の建替えも視野に入れた検討をすることもいいのではないか」と提案（ <a href="#">PDF 30KB</a> ）
	4月27日	国立競技場の建替え、神宮外苑の再整備について、都市整備局が知事に説明（ <a href="#">PDF 511KB</a> ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・神宮外苑地区全体について「ラグビーW杯・オリンピック開催時」「オリンピック後」に分けて再整備を検討</li> <li>・「ラグビーW杯・オリンピック開催時」の再整備案として、人工芝の整備、公園の拡大、区道の廃止・付替え、スポーツ関連団体施設の整備等を行う計画</li> </ul>
	5月10日	副知事と都市整備局との打ち合わせ（ <a href="#">PDF 43KB</a> ）の際に、以下の発言あり <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月7日のパレスホテル祝賀会の席で、内田茂氏から、森喜朗氏に「岸体も国立競技場の建替えに合わせて移転した方が良い」との発言があった</li> <li>・それより以前に、都から森氏と内田氏に移転の話をした経緯があった</li> </ul>
	5月15日	都から森氏に神宮外苑の再整備について説明。（ <a href="#">PDF 1,300KB</a> ）           その際、「JSC（当時「NAASH」）所有のテニスコートに日体協も移転させると良い」との発言あり
	7月	日体協は、JSCから話を受け、JSCと連携した神宮外苑への移転の検討を開始（ <a href="#">PDF 218KB</a> ）
	7月20日	JSCは、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の募集を開始
	10月2日	日体協は都に対し、移転する場合の敷地の取扱い等について問い合わせ（ <a href="#">PDF 49KB</a> ）
	10月15日	都は日体協に対し、日体協の10月2日の問い合わせについて回答（ <a href="#">PDF 34KB</a> ）
	12月12日	都は、JSCによる神宮外苑地区地区計画の企画提案書を受理
平成25(2013)年	1月7日	東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会及び都がIOCへ立候補ファイルを提出
	6月17日	都は、神宮外苑地区地区計画の都市計画決定を告示（ <a href="#">PDF 3,812KB</a> ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区計画の目標・方針の策定</li> <li>・新国立競技場及びJSC本部棟に係る整備計画策定</li> </ul> 都は、都市計画明治公園の都市計画変更を告示（ <a href="#">PDF 1,043KB</a> ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園区域の再編</li> <li>・都市計画公園の立体的な範囲の設定</li> </ul>
	9月8日	2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が、東京に決定
	9月	JSCから日体協へ、JSC棟を先行整備し日体協新会館を後発整備とする案を提案
	11月26日	日体協は都に対し、移転先として都有地の活用可能性等について問い合わせ（ <a href="#">PDF 563KB</a> ）
平成26(2014)年	3月27日	日体協は、都に対し、新会館整備に関して要望書を提出（ <a href="#">PDF 49KB</a> ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーワールドカップまでの新会館の竣工に向けた、都市計画変更等の対応</li> <li>・都有地と岸体敷地との交換等に向けた早期の協議・調整</li> </ul>
	3月31日	神宮外苑地区における今後の土地利用転換について、都市整備局が副知事に説明（ <a href="#">PDF 400KB</a> ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツクラスターの実現に向けた都主導による区画整理事業の実施</li> <li>・JSC本部棟の移転に合わせて日体協を移転させ、スポーツ団体の本部機能を集約</li> </ul>
	5月7日	神宮外苑地区の再整備について、都市整備局が知事に説明（ <a href="#">PDF 582KB</a> ）
	7月10日	神宮外苑地区に恒久サブトラック設置が困難な理由について、都市整備局が副知事に説明（ <a href="#">PDF 1,419KB</a> ）
	9月12日	スポーツクラスターの実現に向けた敷地整序と国有地の取得について、都市整備局が副知事へ説明（ <a href="#">PDF 547KB</a> ）
	11月	外苑ハウス管理組合がマンション建替え決議
	12月	日体協・日本オリンピック委員会合同幹部役員会において、移転の方針を確認
平成27(2015)年	2月3日	都は、JSCによる神宮外苑地区地区計画の企画提案書の一部見直し報告書を受理
	2月23日	岸体の移転に係る都有地の取扱い等の方向性について、都市整備局が副知事に説明（ <a href="#">PDF 232KB</a> ）
	2月25日	都は、岸体の移転先として想定している都有地について、日体協に伝達（ <a href="#">PDF 51KB</a> ）
	3月4日	都市整備局は、都市計画代々木公園における事業着手の必要性について整理（ <a href="#">PDF 85KB</a> ）
	3月13日	神宮外苑地区の再整備について、都市整備局が知事に説明（ <a href="#">PDF 642KB</a> ）
	3月30日	岸体の移転に係る都有地の取扱い等の方向性について、財務局・都市整備局・建設局が副知事に説明（ <a href="#">PDF 540KB</a> ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・代々木公園（岸体敷地）の優先整備区域の方針を決定</li> <li>・岸体敷地を2020大会までに公園整備、その代替地として神宮外苑の都有地を日体協に売却</li> <li>・神宮外苑の都有地を（先行して）日体協に貸付</li> </ul>

6月1日	<a href="#">都、JSC、外苑ハウスは、相互に連携・協力してまちづくりを推進するため、まちづくり基本協定締結（PDF 109KB）</a>
8月7日	<a href="#">東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から都（オリンピック・パラリンピック準備局）に対し、岸体敷地の大会運営用地としての活用の可能性について文書で検討依頼（PDF 135KB）</a>
8月24日	<a href="#">オリンピック・パラリンピック準備局から都市整備局に対し、大会運営用地確保に向けた検討について文書で依頼（PDF 39KB）</a>
11月17日	都と外苑ハウスは、土地区画整理事業に係る協定を締結
12月1日	<a href="#">都は、岸体敷地を含む街区を、代々木公園の優先整備区域に設定（同月15日に公表）</a>
12月15日	都は、霞ヶ丘町付近土地区画整理事業の実施を公表
12月22日	<a href="#">日体協は、都に対し、岸体の神宮外苑地区への移転を文書で要望（PDF 65KB）</a>
平成28(2016)年	
1月7日	<a href="#">都は、日体協に対し、仮換地予定地（都有地）への移転検討を了承する旨、文書で回答（PDF 521KB）</a>
2月18日	都は、日体協による神宮外苑地区地区計画の企画提案書を受理
5月25日	吉田信夫都議からの文書質問（平成28年第一回定例会）に対する回答
5月27日	都市整備委員会 (神宮外苑地区地区計画の都市計画変更について報告・質疑)
7月20日	都は、代々木公園事業の認可を取得
10月3日	<a href="#">都は、神宮外苑地区地区計画の都市計画変更を告示（PDF 5,168KB）</a> ・日体協新会館及び外苑ハウスに係る整備計画策定 <a href="#">都は、都市計画明治公園の都市計画変更を告示（PDF 1,414KB）</a> ・公園区域の変更
10月12日	都は、土地区画整理事業の施行認可を取得
12月22日	<a href="#">日体協新会館建設に係る都有地の取扱いについて、都市整備局・建設局・財務局から知事に説明（PDF 1,431KB）</a>
12月22日	<a href="#">日体協は都に対し、神宮外苑の都有地（仮換地予定地）の売却等について、文書で要望（PDF 1,414KB）</a>
平成29(2017)年	
1月18日	都は、土地区画整理事業の仮換地指定を各地権者に通知
1月18日	公有財産管理運用委員会可決（神宮外苑の都有地（仮換地）の取扱方針について）
1月25日	<a href="#">都は、神宮外苑の都有地（仮換地）の取扱方針を決定（PDF 748KB）</a>
1月31日	<a href="#">都は、日体協に対し、神宮外苑の都有地（仮換地）の取扱方針を通知（PDF 730KB）</a>
5月24日	公有財産管理運用委員会可決（神宮外苑の都有地（仮換地）の日体協に対する一時貸付について）
6月22日	財産価格審議会評定（神宮外苑の都有地（仮換地）の日体協に対する貸付料について）
7月20日	都は日体協に対し、都有地（仮換地）の有償貸付を開始
7月21日	日体協新会館建設着工
平成30(2018)年	7月19日 日本スポーツ協会（旧日体協）に対する都有地（仮換地）の有償貸付が終了し、都は同日付で売却
平成31(2019)年	4月30日 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE（日本スポーツ協会新会館）竣工
令和元(2019)年	12月23日 土地区画整理事業の換地処分公告
令和2(2020)年	11月19日 土地区画整理事業の終了認可公告

## お問い合わせ先

都市づくり政策部 土地利用計画課  
電話 03-5388-3318・3248

ページの先頭へ戻る



**取扱注意**

各委員会用紙

吉良よし子

## 神宮外苑の再整備について

○日時 平成24年5月15日 13:30~13:45

○場所 衆議院第二議員会館 301号室

○先 方：森喜朗衆議院議員

東京都：佐藤副知事 安井技監

<佐藤>・神宮外苑の再整備について、東京都として考えているイメージをご説明にあがつた（別紙参照）。

**【STEP1】**

<安井>・ラグビーW杯・オリンピック開催の前後二段階で全体を再整備、新競技場の敷地、競技場周辺のバリアフリー化と都市計画公園の付け替えのために人工地盤を整備、サブトラックは競技場敷地の外、NAASH本部・日本青年館の移転先としてテニスコート（NAASH所有）を想定、スケジュール的に可能な範囲で駅からのアクセスを改善、再整備は二段階になるが都市計画変更に必要な調整は同時にスタート等について説明。

<森>・（霞ヶ丘アパートの）住民の移転は大丈夫か？

<佐藤>・（住民が入居した経緯、店舗の存在等を説明し）近くにある他の都住に移転してもらえるために国策として計画を進めていくことが必要。

<森>・日本青年館は気持ちよく協力してくれる。ここに（NAASH所有のテニスコートに）日体協も移転させるといい。どのくらいの規模が健つか？

<佐藤>・隣接する明治公園も敷地に使い、（高さ等の）規制緩和が可能。

<森>・昨日、安藤（忠雄）さんと会った。国際コンペで世界に発信するのは良いけど、スケジュールが遅れるんじゃないの（と言っておいた）。彼を東京都に連れてきたのは石原さんだ。石原さんが（スケジュールを遅らせないように）彼に言わなくちゃ。

**【STEP2】**

<安井>・オリンピック終了後に第二段階の整備をスタート、第二球場跡地に恒久サブトラック、神宮球場とラグビー場の敷地の入れ替えの利点（明治神宮所有地の商業的な利用増進、両競技の中止を回避、ラグビー場の芝の養生）、青山通り沿道の民間再開発の動向、外苑前駅地下道の延長可能性等について説明。

<森>・佐藤さん、すばらしい案じゃないか。長生きしないと。サブトラックもここがいい。（神宮球場とラグビー場の入れ替えについて）ラグビー場の芝もその通りだし、新競技場とサブトラックに近いほうがいい。港

区は喜ぶんじゃないかな。

〈佐藤〉・明治神宮の協力が必要。

〈森〉・相手が神様だから大変だな。絵画館はどうするの?

〈安井〉・銀杏並木からの眺めを含め絵画館周辺の景観は維持する。

・外苑前駅からのアクセスを改善するためにはTEPIAの移転が必要。

〈佐藤〉・トレーニング・ジムがあるが(施設全体が)余り使われていない様子。

〈森〉・あれは昔、日本最初のボーリング場だったんだよ。若い頃は我々もここで練習した。どういう経緯で経産省に渡ったかわからない。NAASHは本部の一時移転先にTEPIAを考えていた。ラグビー協会も時々使うけど、あの場所に要らないな。

・不吉なことを言うようで悪いけど、もしこっち(オリンピック招致)

がXになったらどうする?

〈佐藤〉・神宮外苑全体の再整備は進める。

〈安井〉・都市計画変更の調整は全体の再整備を前提に進める。

〈森〉・すばらしいよ。あと15年は長生きしないと。

## 霞ヶ丘競技場の建替えについて（萩生田元代議士と情報交換）

○平成24年2月28日 14:30~15:00  
自民党控え室

## ○概要

〈萩生田〉・先々週の金曜日、知事から「猪瀬と相談してくれ」と言われた。オリエンピックの件で猪瀬氏は関係してるのである。

〈安井〉・関係していない。担当は佐藤副知事である。

〈萩生田〉・東京マラソンに出たりして最近、露出してるな。スポーツ立国議連で森元首相から「競技場施設そのものは国。しかし都が一生懸命汗をかいてくれないと困る。君が、文科省、NAASH、都を横断的に調整してくれ」と言われている。

・(別図を広げながら) 日建設計がこんな案を検討している。国が踏み出すことを都が待っていては遅い。

〈安井〉・承知しており、私の局が中心に副知事と相談しながら内々検討している。私も日建と会い、検討作業の方向を確認している。

〈萩生田〉・日建もそう言っていた。広いエリアで考える必要があるし、実現する時は自民党政権に戻っている。今の機会しかこの整備は出来ない。

〈安井〉・まずは競技場の敷地を固めて事業計画を決められるよう地元区の説得が必要だ。その上で周辺の再整備の方針—直接的な権利制限は無い—to定めて段階的に他の区域も具体的な整備計画を定められるようにしておく。

〈萩生田〉・そのような案の作成はスポ振局では無理だろう。

〈安井〉・競技場の事業者であるNAASHがまとめるべきだが、都が素案を実質的に作り、NAASHからそのまま提案させるような形にさせたい。  
NAASH側に都と調整できるカウンターパートナーはいるか。

〈萩生田〉・藤原理事が良いのではないか。会ったことがあるか。

〈安井〉・河野理事長の随行として二度会っている。信用できる方か。都市計画決定まで継続的に調整できるか。

〈萩生田〉・信用できる。彼はこの話をまとめないと(文科省に)帰れないだろう。

〈安井〉・調整できる技術職員はいないか。

〈萩生田〉・聞いてみる。藤原理事と我々の三人で会おう。ところで、日体協は岸記念体育館の現地での建替えは、財務省との関係で難しいので、霞ヶ丘に移ってNAASHと一緒にビルに入りたいと言っている。

〈安井〉・NAASHが誘ってるのではなく、日体協が望んでいるのか。

〈萩生田〉・日体協が望んでいるようだ。

参考資料

## ■都市計画の見直しと競技場施設建築敷地

